

助成事業実施報告書

団体名 一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク

代表者・役職名 氏名 市原 信行

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

大学生連携福祉防災プロジェクト

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

阪神淡路大震災から地域の災害ボランティアの大切さを知り、1999年4月に発足2013年4月に一般社団法人として法人化、会員数35名登録会員900名、災害地の支援活動や地域防災減災活動に力を注ぎ活動を展開しております。

特に近年は高校生や大学生に防災意識の向上と地域防災リーダー育成研修や被災地の同学年との交流事業や、神奈川県内での福祉と防災等の研修事業へ力を注いでおります。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

神奈川県内の各大学での防災や被災地支援などの取り組みは、大学内やサークルなどで、個別に行われています、しかし県内の大学間の福祉防災に対しての連携はほとんどありませんでした、貴重な大学生たちの活動をより有効に、かつ効率よく、連携を行う事で、今までの数倍以上の活躍が期待できます。大学生連携をしっかりと見据えた、県内初めての福祉防災大会(仮称)の活動を目指します。

県内などの災害発災後、いち早く活動ができる大学生などとの日ごろからの連携は大切です、県内防災力向上にもつながることで、各地域の学生連携なども構築できる体制づくりが見込めます。

まだまだ小さな活動ですが、毎年繰り返すことで、徐々に大きな輪を気づき上げることが出来るプロジェクトになっていく事を願っています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

県内の大学10校程度を集め(大学生、目標30名程度)、11月25日福祉と防災を考えていただき、講演や、研修を通して連携を図り、交流会も行い、災害時の連携や、常日頃からの地域防災を考えていただき、顔の見える関係づくりや、地域のネットワークの一員となる連携組織を目指し、数年をかけ活動を支えていけるかながわ学生福祉防災大会の開催を行いました。

6月より実行委員準備会、実行委員会を適時、順次開催し、より多くの大学などからの参加を募り、11月25日【かながわ学生福祉防災大会】を開催しました。

各準備含め、初年度の学生福祉防災大会であり、高校生も大学生も参加をしてくれました、この高校生達が次年度は大学生などにもなり、更なる次年度以降の参加なども見込めます。

高校生15名、大学生15名の参加があり、各学校やグループでの日ごろからの防災や被災地支援活動などの発表も行っていました。また関連して2018年3月には被災地の当時小学生をお招きしての、福祉防災研修も開催ができました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

小さな活動プロジェクトでしたが(初年度の為)、30名の学生が(神奈川県内)参加、防災の取り組みに力を注いでいる三重県四日市大学や宮城県東北大学の生徒さん方も参加、神奈川の学生が平時から連携と防災への活動を徐々に、共に行うこと等を検討、学生LINEグループを立ち上げました(当団体代表も参加)、この事業により、神奈川県は勿論、教育委員会や社会福祉協議会や、県内大学関係者なども興味を示していただき、今後ご協力を願えることとなっております。県内の防災、減災などの為とても必要な事業と考えております。2018年度は神奈川新聞社などもご協力を頂ける事となり、新聞社などでの会議なども検討します。

多くの学生を巻き込んだ災害ボランティアセンター設置訓練なども検討しております。神奈川の防災強化のため、学生の裾野を広げていけることを願っています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

神奈川県内でのプロジェクトを継続することが一番であり、徐々に活動を広げていけることが一番であると考えます。学校などからの協力も多数必要となり、また学生への周知や広報、学生が具体的な活動などができる体制づくりが必要と考えます。

例えば、学生が県の支援物資などの担当を担うなど、具体的な学生ボランティア活動が見えれば、より学生が防災減災活動に参加しやすくなっていくのではと考えます。

そのためにも、多くの行政や諸団体、県内の防災関係者などと多くの語り合う場も必要と思います。

もちろん、神奈川にも防災意識の高い、強い学生や教育関係者も多くいます、そのような方々を今後も巻き込みながら、このプロジェクトを継続できる活動として行わなければなりません、多くの関係者への広報と、周知、語り合う場の設定を試み、巻き込んで学生連携と、学生防災力の向上に寄与できる活動を行っていきます。

今回の関連事業で、3月に宮城県東松島市で語り部などの活動を行っているT T T (被災高校生と大学生などのグループ、被災当時皆が小学生)のメンバーをお呼びし、神奈川県内の高校生や大学生に被災当時の語り部や当時の学生生活、今の被災地などのお話をしていただき、共に意見交換などの場も設けました。神奈川の学生の為、防災力向上のため、被災地域の同年代同士の意見交換などの場を設けることも大切であると考えます。(別紙参考資料添付)

多くの神奈川の子ども達が被災地を知り、被災地を学び教訓として、神奈川における防災減災活動をお今後も行っていただける事を願います。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり

別紙活動報告書など添付いたします。

2017 かながわ学生福祉防災大会 報告書

主催：一般社団法人（非営利型）
やまと災害ボランティアネットワーク
共催：特定非営利活動法人
神奈川災害ボランティアネットワーク
後援：真如苑（市民防災減災プロジェクト）
協賛：特定非営利活動法人
よこはま・七つ星
協力：神奈川県教育委員会
神奈川県共同募金会
神奈川県民活動サポートセンター
神奈川県社会福祉協議会
神奈川県大学災害ボランティア協議会
かながわ学生ボランティア連絡会議

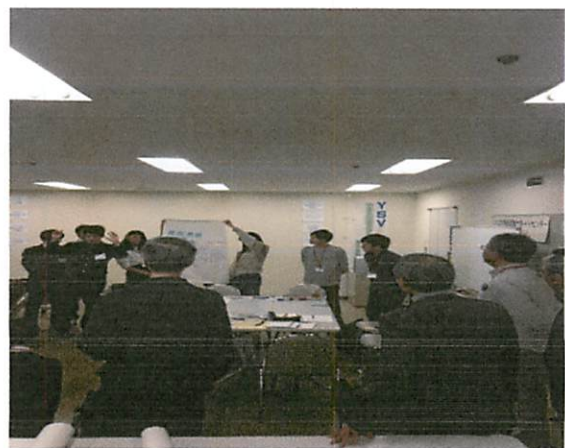
2017年11月25日かながわ県民センターにて、第1回かながわ学生福祉防災大会を開催いたしました。

神奈川県内の高校生と大学生が共に、福祉と防災を共に考え、防災意識の向上を目指す事業です、神奈川の学生が、災害時に備え日ごろから取り組める福祉と防災を自らが考え、具体的なアクションを起こせる小さなグループを作るところからスタートができればとの思いから、開催することが出来ました。

（真如苑協力事業）



参加学生との記念撮影



当日は多くの災害関連諸団体も見学へ

神奈川県内の大学7校、高等学校5校による、神奈川県初の学生連携での福祉と防災を共に考える大会を開催することが出来ました。

神奈川県内での災害時などに、神奈川県内の大学生や高校生が連携を行なっていただき、県民のためにいち早く様々な活動を模索し、実働していただける為の連携をスタートさせたいと願っての、初の試みでした。

東日本大震災の時に宮城県立石巻西高等学校の教頭先生から校長先生になられ、現在は東北大学の特任教授をされている、齋藤幸男先生と、三重県において東日本大震災や熊本地震などへ

の支援活動を大学生と共に行い、各被災地へ出向き活動を行い、また三重県での様々な大学生防災減災活動を掲げ共に活動をされている四日市大学総合政策学部教授・学部長 鬼頭浩文先生をお招きして、各先生方の講演と学生の防災意識向上のためのテーブルワークなどのファシリテーター役などを行っていただきました。

齋藤先生は、東日本大震災時に実際にお勤めだった石巻西高等学校が（当時は教頭先生）避難所にもなり、又その後遺体安置所にもなってしまう、当時の高校生なども被害に遭い、その後4月から校長先生になられ、避難所や安置所の運営や高校生の学校生活を支え続け、学校運営や避難所運営の経験者でもあり、現場のトップとして指揮をされてきた先生です、齋藤先生は当時の教訓や反省を踏まえ、学生の大きな力が避難所などを救う事が多々あり、その経験をもとに学生の防災意識改革と実際の避難所での出来事や運営方法などを学生が共に考えること等を行い、避難所運営訓練などを提唱し、全国の高等学校や大学などでの講演などを多数行い、同時に学生の避難所運営訓練なども実践に則した内容を各地で開催をしています。昨年度は神奈川県 の 県立高等学校の防災担当特命講師などをお勤めにもなっております。



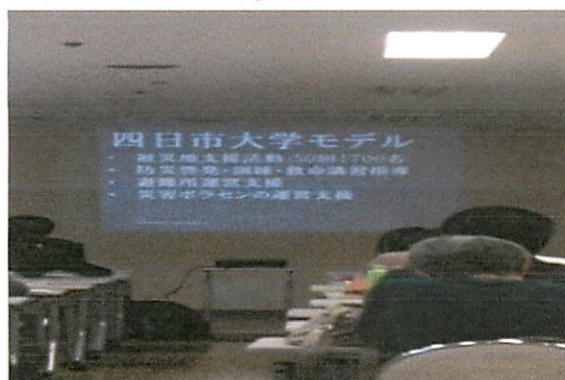
齋藤先生による公演の様子



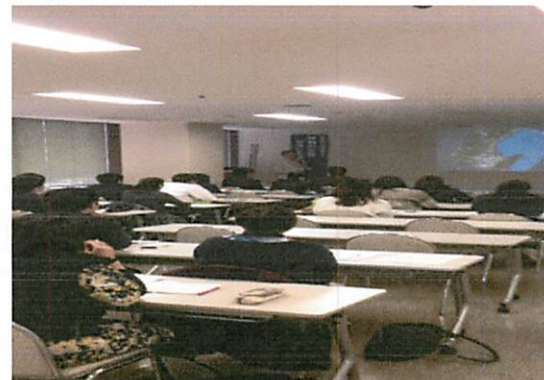
鬼頭先生による公演の様子

神奈川の学生が、日ごろから防災減災活動などを行っていただける連携隊が出来上がることを心待ちにして、今回の初開催となりました。

鬼頭先生におかれましては、三重四日市大学モデルを提唱され、被災地への支援活動や防災関連の講演や救命救急の講演、学生消防団の啓発、学生防災士の啓発、災害ボランティアセンターの学生の役割分担事業などを進め、三重県や四日市市などと共に学生防災連合を築き上げる尽力をされています。

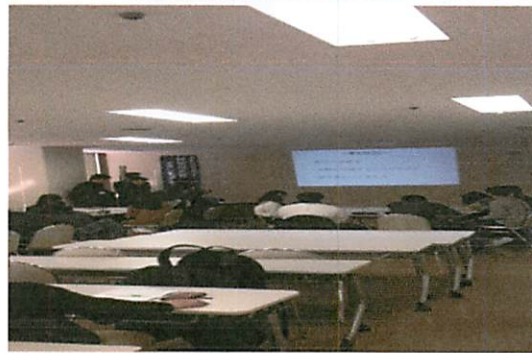
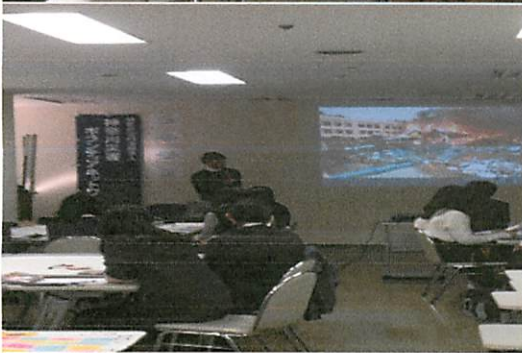


四日市モデルの発表



鬼頭先生の講演の様子

神奈川の各大学や高校生のサークルやボランティアグループ、個人グループの学生等被災地での活動や県内での活動などの活動報告も当日行いました。



神奈川県が共に考え、被災地での活動などを行っています。
東日本大震災各被災地での活動や熊本地震被災地での活動など、様々な活動を数多く行っています、この経験や体験をどのように生かしていくかも大きな課題の一つになりました。
被災地活動を良い教訓とし、今後は学生連携などを考え学生同士が被災地へ支援活動に行きながら、地域の防災の事も考えていくべきとの声もあり、小さな学生グループを先ずは作ってこうと、来年 2018 年夏の宮城県などの被災地災害ボランティアと研修などを企画したいとのことで、LINE グループによる、グループを設立しました。
また学生が神奈川県内の資機材などを管理運営してはどうかなどの意見もあり、三重県では学生が三重県の資機材物資倉庫などを担当する県と学生の話し合いが現在進行中であるなど、他地域の学生の活動なども参考にすることも大切であると実感しました。
災害時などにどのような事ができるか、平時からの活動も大切であるなどの意見も多数出ました、学生は講演の後、テーブルワークで避難所での役割や運営の方法なども話し合い、それぞれが考えた、内容などを発表も行っていただきました。



最後に大学生代表と、高校生代表から、それぞれ神奈川災害ボランティアネットワーク理事長に福祉防災宣言を行っていただき、学生が学生の強みを生かした、防災減災活動を日ごろから行っていく事、この学生連携を大切に、毎年後輩に受け継いでいく事、今後も神奈川の学生連携のために学生同士の繋がりを大切に、日々防災を実践していくこと等の宣言書を読み上げていただき、閉会といたしました。

閉会后四日市大学の学生さん方などと神奈川の学生との交流会なども行いました。

福祉防災ではでなかった意見や提案などもありました。

やまと災害ボランティアネットワーク・神奈川災害ボランティアネットワークでは、今後も学生連携へ力を注ぎ、学生が自ら活動ができるまで支援協力、応援を行っていきます、各地域ネットの皆様からのご協力、応援もよろしくお願いいたします。

以上

2017 年度かながわ学生福祉防災大会のご報告とします。

2017 年 12 月 吉日
一般社団法人（非営利型）
やまと災害ボランティアネットワーク
かながわ学生福祉防災大会実行委員会
事務局、実行委員